

Exhibit No.

I.P.S. Doc. No. 3348

連合國最高司令官總司令部法務部及び  
國際検察部

一九四三年至一九四年時、海軍大尉鳴田繁太郎が海軍  
軍令部総長及び海軍大臣下アワタ一九四四年二月カラ  
一九四年七月マテ、期間日本潜水艦八号、浙陽マテ  
日本第八潜水隊、印度洋ニ於ケル作戦ニ関シテ

宣誓供述書

「松酒井進」正式宣誓シテ上記、通り供述シス。私は  
十九歳アリス。私は逗子ニ住メ居リス。私は東京/  
葉麻耶進駐軍一勤務入心地圖、監督及通譯者  
アリス。私は日本帝國海軍ニ指校トニ十五年余勤  
務シ海軍中佐、職居シ。私は一九四三年五月カラ一九四五  
年二月マテ第八潜水隊、通信參謀アリシタ。同時、情  
報將校ヲ兼ネテ居シ。私は一九三二年ニ海軍兵學校  
卒業シシ。少尉候補生折ニ私は教官、日本巡洋艦  
ニ勤務シ一九三三年八八月ニ赤組ニテ歐羅巴ヘ航行シ  
シ。私は一九三七年ニ横須賀、海軍通信洋校、卒業シ  
シ。ソシテ中國方面勤務トナリシタ。一九四一年、初ニ私は  
第五潜水隊勤務(通信參謀)ヲ命ぜシタ。一九四二年一月  
第五潜水隊八号ニ司令部ヲ置キ候當時醍醐多カシ  
海軍少将が司令官アリシタ。八号ハ商船基地アリ  
シタが、吾等ハ司令部ヲ二ドホモニ置キ、吾が潛水  
艦ハシテ及ビ港湾設備ヲ利用シテシ。潛水隊ハ當時六隻  
ノ潛水艦ヲ有シ其任務、聯合軍、印度ノ補給路ヲ破壊

P.S. Doc. No. 3348

p.2.

不事アリマシタ。一九四三年四月、初メ第三第五潜水隊ハ之ノ  
トウエーブ作戦二十六加入シテハ佐世保ニ帰還ヲ命ぜシテシ。  
「ベナ」ノ第五潜水隊ト交代シタハ海軍大將軍サン摩  
下、第三潜水隊アリマシタ。一九四三年七月から一九四三年五月  
ニシテ、中國行動務シコシ。

一九四三年五月三日ハ「ベナ」ヲ根據地セル第三潜水隊參謀  
將校(通信)ニ仕セテシタ。該潜水隊、戰争始マタ折日  
本ヲ編成サンタリシ。一九四三年十一月、右潜水隊ハ臺灣、  
シドニ、海上攻撃ニ參加シマシタ。一九四三年一月ハ「マサカ  
カ」北部、「アエゴスアシ」、海上攻撃ニ參加シマシタ。  
其後第三潜水隊、修理、為メニ日本ヘ歸リシタ。修理終  
シテカラ第六潜水隊ハ「ベナ」ハ派遣セリ。一九四五一年二月ニ解  
隊セリ。同地、根據地ニ居シマシ。其當時私ハ  
「ベナ」ハ第十五海軍守備隊根據地、先遣將校ナリ。  
海軍中佐進級シマシ。一九四五八年八月廿三日、私ハ海軍  
少將魚種沿岸監視官、代理シテ英國駁船「スリン」号  
ニ行キ、海軍大將「ウオーカー」面会、ハ「ベナ」根據地ヲ英國  
引渡入取極メラシマシ。ハ「ベナ」。一九四五九年九月三日降  
伏、英國海兵隊ハ上陸シテ根據地ヲ接收シマシタ。  
第三潜水隊ハ「ベナ」ヲ根據地ニシテ居タル當時、合計十四  
隻潛水艦ヲ持テ居シタ。ソニ等ノ潛水艦、次々運ナリ  
マリマシタ。

一八、一〇、一六、一七、一九、三四、三七、三九、  
一六五、一六六、二〇、二一、二二、二三、二五、

P. S. Doc. No. 3348

p. 3

四十八潛水艦、約一八〇噸、長廿八十米、十八週間、哨戒三基  
ヘ特級九名、下本軍兵船、高木名在乗組、中佐三名。一人。  
及官士十名。港湾及び其施設、該處偵察、洋上交通路ヲ調  
査入、水上飛行機（機）ア、搭載入、設備ヲ持ツ、  
居ツ。

五、利津留期間中、ペナフ根據地ト獨逸潛水艦、  
八隻乃至十隻、上海海軍中佐、ドヌス、指揮下ニアリシ。日獨  
若同作戰初々六、兩者ハ協定ヲ行ヒ獨逸潛水艦、東經  
二十四度線、西、又日本潛水艦、同線、東方有威石布、之  
シ。然ニ一九四四年、初六、ペナフ港ヲ起ニテ行動ス。日  
獨何、潛水艦、ニ市寧工事区域、ハアリセシム。

六、港内に日獨、交歟シ。潛水艦が入港中、日本  
人、獨逸潛水艦、招カ、獨逸人、日本潛水艦、招待サシ。  
時、潛水艦が、ペナフ港内、試運轉シテ折  
合、獨逸人、日本人數名ヲ招キ、同乗サセシム。  
然ニ作戰行動、降ニ日本人ハ決シテ獨逸潛水艦、同  
乗シカガタシ、日本潛水艦、試運轉、ニ作戰行動、  
降ニ決シテ獨逸人、乘リケンシム。

（次頁）

六、オハ潜水隊、任務、英國艦隊ヲ偵察シ且ツ連合國側  
、印度ヘ、補給線ヲ遮断スルニ在リマシタ。獨逸側ハ  
石補給線、遮断ニ付テハ日本側ニ協力シマシタ。  
右潛水隊ハ日本、オハ戦隊、指揮下ニ作戦シマシ  
タ。右戦隊ハ潛水、戦隊ニアリマシタ。同戦隊ハ最初  
太平洋上、トラック根據地トシマシタ。一九四四年前  
半期中、或時期同戦隊ハトラックカラ日本、呉ニ  
移動シマシタ。オハ戦隊、指揮官ニハ高木中將  
及ビ三戸壽中將ニ居リマシタ。

七、オハ潛水隊ニ討スル命令並ニ指令ハ次、如順序ヲ經  
テ傳ヘラレマシタ。即ナ命令ハ東京、軍令部ヨリ  
トランニ於ケルオハ戦隊ニ至リ、右命令ハオハ  
戦隊ヨリオハ潛水隊ニ移籍サレマシタ。然シ指令ハ  
東京、軍令部カラ直接オハ潛水隊ヘ奉マシタ。ト  
玄フ、ハオハ戦隊ハ印度洋ニ於ケル確實ナル狀況ヲ  
知悉セズ、又オハ潛水隊、或將校達ト東京、軍  
令部間ニ直接通信が持續サレテ居タルアリマス。  
八、オハ戦隊、オハ潛水隊及び東京、軍令部間、通  
信ハ専ベモ要スル通報ハ無電ニ依リ、書類ハ空輸  
ト致シマシタ。オハ潛水隊カラ傳送サレタ情報ハオハ  
戦隊ハ、東京、軍令部ハ、字一通ヲ添ヘテ送ラレ  
マシタ。此情報ニハ通用三種アリマシタ。即ナ(一)第八  
潜水隊、潛水艦活動(ニ)此等潛水艦ニ依ル擊沈及ビ  
(三)偵察報告デアリマシタ。

I.P.S. Doc. No. 3348.

p.5

九、參謀將校（通信）トシテ哨戒前潜水艦乗員ニ指  
令ヲ與へル付テ、松、江務、潛水艦、通信士官  
並ニ其、通信士二對、彼等、無電機使用不可  
（同波數ベ）ヨリ、我、放送三波長、調整スル  
時刻、ヘリ、ハ、應答時刻（通例夜間）及日候  
用可、信子付、周、指令、艦ヘルコトテアリシ。  
潜水艦、敵船、次、毎二通報、寄、警手次、  
時刻位置、其船、單獨、或、護衛、居  
リシヤ又其船、如何、進路、取り居シヤ等、知  
テセラムシ。連合國側船舶、擊沈、周、通報  
於、戒、使、暗号、五字暗号、アリシ。才一  
字、時刻才二字、緯度第三字、經度第四字、  
單独、船名若、護衛、船名、才五字、  
進路、表示シシ。比通報、ヘリ、潜水艦向  
、夜間放送、於、同通報、受領、証記スルアテ  
ハ、毎夜三回急速、潛水艦、夜、總、送ケンマシ。  
潜水艦、帰還、時、松、江務、潛水艦ガ入港  
シ、子機同横付、トドルヤ否ヤ、一車、迄、無電  
室降、行ツテ、通信日記、通信設備、参考、  
通信士達、集、監スルコトアリシ。才、潛水隊、公  
文書、總、一九四五年一月同隊解散、降、空輸東京  
ヘ持行ケンマシ。

十. 私が第八潜水隊所属にて平ル間ニ同隊、潜水艦ニヨリ駆逐サレタ  
聯合國船舶、數ト凡ソ四十隻アリス。コノ總計ハコヘナコラ根  
據地トシテモトコロ潜水艦ニヨリ駆逐沈ナシラ船舶、總數ヨリモ稍  
大キモノアリス。各潜水艦、哨戒及ビ夫乞、指揮官、各潛  
水艦ニヨリ駆逐セラタ聯合國船舶及ビノ、他、作戦、細目、  
聯合軍將校諸氏、要事ニ應シ私ハ調査シタアリスガソ  
將校諸氏（軍ニハ一九四六年四月九、十、十一、十二、十三及十五日）  
「コレイシニカホル」ニ於テ私ヲ訊問シタアメリカ陸軍ノ「G.I.  
F.」等、三在中尉及ビ一九四六年六月十九日東京ニ於テ私  
ヲ訊問シタ。英國海軍支那軍兵豫備隊、「W. S. L. T.」  
大尉カ居リシタ。兩將校共聯合國最高司令官給司令部  
法務部、部員アリシタ。私ハユーロ人ニ本供述書中一事  
項及並ニ潜水艦「八号」向ニ以下、報告述ヘタアリス  
内野大佐指揮下、英國海軍潜水艦「八号」ハ日本ヨリトヨリ  
航海ヲ一九四三年十二月三日カボルヘ歸着、致シタク。又、歸  
航際にハ西人、アドレイン・トマス、ナ佐ト三人、技術者  
ハ乗組シ居リシタ。一九四四年三月二十一日ハ有泉哲之助  
（音誤）中佐、指揮下ニ置カレシタ。同艦ハ一九四四年三月二  
五月迄、セイロン、南方及チタゴス羣島、附近ヲ哨戒ニ隻  
一船駆逐シシタ。ハマニ三週間碇泊シテ修繕モ六月  
初旬イハナハ再び出航シハ日上向追哨戒致シタ。つ一度、  
哨戒ハ第一回ト同じ水域テ二隻、船駆逐沈没シタ。一九四年  
九月イハナハ有泉中佐、指揮下ニ日本へ歸航シシタ。結果  
ニ就キ云ハバ、内野大佐ハ極度に清貧、温厚之人カシタ。

I.P.S. Doc. No. 3348

ノニ反シテ有泉中佐ハ非常ニ猛々シイ軍鬪精神、横濱シテ  
キナ人ナシタ。彼ハ亦極力勤勉十聰明才人アリシス。彼ハ  
戦鬪ヲ欲シテ門<sup>ノ</sup>に陸上勤務ヲ非常ニイアガモ居リシタ  
私ハ戦前有泉中佐の海軍之令部付參謀官は接<sup>シテ</sup>ハワイ  
諸島攻撃<sup>ミ</sup>使用先<sup>ハ</sup>潜水艦トソ<sup>ノ</sup>乗組員<sup>ハ</sup>選拔<sup>ハ</sup>任ニ当  
ツキタクユト<sup>ヲ</sup>聞キシタ。彼ハ日本カトイヘバ子供<sup>ハ</sup>イ顔付  
テシタ<sup>ハ</sup>テスカ海軍<sup>ハ</sup>友人達<sup>ハ</sup>間ニ於ケル彼ノ綽名ハ「ヤシ」  
アリシク。

私ハ先ニイハシカ一九四四年（三月カラ五月ニカニ）<sup>テ</sup>、哨戒<sup>テ</sup>船一  
隻<sup>ヲ</sup>駆逐<sup>シ</sup>、一九四五年六月乃至八日、哨戒<sup>テ</sup>ハ二隻<sup>ヲ</sup>沈<sup>メ</sup>タ  
トイフ事<sup>ヲ</sup>申レシタ。私ハコニテ、聯合國船舶が沈メラシタ  
フン<sup>ヲ</sup>時知<sup>リ</sup>居<sup>シ</sup>シタ<sup>ソ</sup>レラ。名前ハソノ頃ハ分リシシタ  
前述ノ事<sup>テ</sup>正中尉ニヨル訊問<sup>ハ</sup>降<sup>ル</sup>私ハ最初<sup>コ</sup>テ<sup>ニ</sup>擊<sup>シ</sup>サ  
レタ聯合國船舶、名前ハ知<sup>生</sup>セシシタ<sup>セ</sup>也<sup>。</sup>國<sup>ヤ</sup>諸<sup>々</sup>船舶  
沈没<sup>ハ</sup>位置狀況日時第八潜水隊<sup>ハ</sup>所屬潜水艦<sup>ハ</sup>哨戒  
水域<sup>ハ</sup>時期<sup>ハ</sup>期間<sup>ハ</sup>各潛水艦<sup>ハ</sup>各哨戒<sup>テ</sup>船<sup>ハ</sup>各<sup>々</sup>艦<sup>ハ</sup>日本海軍<sup>ハ</sup>  
舶<sup>ハ</sup>指定<sup>シ</sup>隻<sup>ヲ</sup>放<sup>サ</sup>ヌ<sup>ハ</sup>各<sup>々</sup>艦<sup>ハ</sup>日本海軍<sup>ハ</sup>  
今<sup>ハ</sup>助<sup>ケ</sup>ラモ藉<sup>リ</sup>テ我<sup>々</sup>ハ專<sup>シ</sup>此<sup>セ</sup>サ<sup>タ</sup>各種聯合國船舶二<sup>対</sup>  
ニテ責任アリト思<sup>ハ</sup>ル潜水艦<sup>ヲ</sup>判定<sup>シ</sup>得<sup>タ</sup>リス

コ<sup>ノ</sup>稀ナ調査ト協議<sup>ミ</sup>基<sup>シ</sup>私ハイハシ（三月カラ五月ニカニ）  
<sup>ハ</sup>噴<sup>シ</sup>成<sup>ル</sup>際<sup>ニ</sup>專<sup>シ</sup>此<sup>セ</sup>サ<sup>タ</sup>船舶ハ「ジサク」アル<sup>ト</sup>確信致<sup>ス</sup>  
私ハ有泉中佐<sup>ハ</sup>一隻<sup>ノ</sup>船<sup>ヲ</sup>專<sup>シ</sup>シソ<sup>ノ</sup>後<sup>テ</sup>同<sup>シ</sup>放命艇<sup>二</sup>  
名<sup>ハ</sup>ヨーロ<sup>ハ</sup>婦人<sup>ハ</sup>イル<sup>ノ</sup>ヲ見カ<sup>タ</sup>ト話シテ申<sup>ル</sup>ノ<sup>ヲ</sup>聞<sup>シ</sup>覺  
エ<sup>カ</sup>アリス。イハヨニヨリ<sup>ハ</sup>專<sup>シ</sup>此<sup>セ</sup>サ<sup>タ</sup>諸<sup>々</sup>船舶識別<sup>ハ</sup>同<sup>シ</sup>方

I.P.S. Doc. No. 3348

法三ヨリ一八年一六日ナシハ、自占ノ時戒、隊ニ隠ニ  
集、中一方ハ、汽船、ヤンニコレア、アクラコトヲ確信致シ、居リ  
ニテ、同船、沈没當日(一九〇四年七月二日)、六一人早ハ、ニコレ  
カ、乗沈サリ、近リ、水域、行動、ナキタ、日本潜水艦アリメ。  
ナス一九〇四年八月、八人早ハ、ニ三人、浮舟カラ、ボランヘ、連レ  
歸リ、又ニタ、ソ、浮舟、達、國籍、ハ思ヒ事セヨ、船が第八號  
水隊、所屬、シテ、間、同隊、潜水艦、ニヨリ、ボランヘ、連し來ラ  
シタ、浮舟、給數、ハ大体、五六人アリシク。

P.8.

十、擊沈サリ、船カラ、連行サレタ、浮舟、達、訊問法アリスカ。  
浮舟、ハ捕ヘテ、後、先ツ、潜水艦、船上、テ、訊問、シテシタ。イ  
十号、場合ニ於テ、ハ、浮舟、達、ハ當時、參謀長アワタ、有泉  
中佐、前ニ、連、シテ、來シタ。彼ハ、海面、一、狀況ニ、用心、持ナリ  
ラコレ、浮舟、認、問、行シタ。ハロスニ、依テ、連行サタ  
浮舟、ハ、浮舟、達、有泉中佐、ハ、コレ、浮舟、モ、海上、船テ、訊  
問シ、ソ、際、入主シタ、情報、ハ直生、用ヒマシタ、ニ、ニワ、一、場合  
何レ、浮舟、ヨリ、アレタ、情報、ハ各、潜水艦、晴海、ヨリ、歸  
還後、潜水艦、指揮官、ニ依テ、參謀會議、ニ提出サレシタ。  
私ハ、潛水隊、情報、特、較アリシタカ、第八、潜水隊、浮舟、因  
スルニ、二ツ、場合ニ就テ、ハ、訊問、ハ行ヒセシ、アンタソレハ、有泉  
中佐、ハ凡テ、ヲ行フタカラズ、コレ、浮舟、ハ、彼等、情報、ヲ自己、タニ  
級船員、アリユビシカラ、有泉中佐、ハ、彼等、情報、ヲ自己、タニ  
充分、利用シタガウテ、アリシタ、有泉中佐、ハ、訊問、調書、作  
成シ、船室便テ、以テ、海軍省、ニ送付シタ。彼ハ、多シ、友人

I.P.S. Doc. No. 3348

ラソニニ持テ居リシヲカツノレ位ハ極大ニ容易ニ出来  
ルナシタ、然ニ私ハ有泉中佐が自分ノ蒐集ニシ情報  
ヲ何一ワ私ニ知ラセヨウトシナカツタ、彼ニ対シテ大ニ憤慨シ  
シナ

保育院等ニ勤メ、私ハペナンニ居ル間、何ニ間キ也  
ニシタ、私ハ「ゲティ」中尉カラ汽船「シサク」及ビ汽船  
「ヤンニラ」生存者、陳述ヲ讀ミ間カセルコトハ、ソ  
ホチ羅科ニ就キ、全然知リセシシタ、私ハソニ勤メ  
潜水艦、將校や乗組員達トアヨリ交遊カナカツカツア  
リセウ、私ハ參謀將校アリュンクカツカ帝隊上ニアリニシ  
タ、私ハナシニ在住、中國人、間ニ友人ヲ持フニ居リシタ、  
勤務外ノ時間、大部分ハ一人達ノ許ノ過ニテ居リシタ。  
コニ反シテ潜水艦、乗組員達ハ町、人達ニ知己ハ極メ  
カクヘナシ、日本料理店や日本人、「慰安婦」、許テ  
時ヲ過シテ居リシタ、私モノ日本料理店ヲ訪レラストガアリ  
コスカレバ公ノ宴會日、場合ニ限リテ居リシタ、私ハ單  
独テリコヘ行クコトハアリセシ、ソニナ計テ私ハソニ知リ  
行為ニ就キ、百ニル機會日持テナカツタセウ、今猶私  
ハソニヤウナ事かアワタトハ殆ド信ジラレセン

b.9.

十二、潜水艦ニ付スル怪虐行為ニ因シテ、連合國政府カ  
ラ、抗議就テ人直接東京海軍省カラ二隻ノ中立國  
船、憲兵二閩聯ニアワタ思ハレル第ハ八潛水隊、潛水

P.R.S. Doc. 110. 3348

艦隊東シニ三度又報告、零本ガアリシテ、總合國側抗議、眼目シ米英蘭船沈没二例又調査、零本ハ第八潜水隊ハアリスル。

左、私共ノ月ニ第八潜水隊所屬居シタ、間同隊多シ、作戦ニ從事シタソシ故私、島シ報告、正確ト言ハセシカキ、記憶ニ居ル限モアリスル

西井進一署名

日本東京

私、酒井進、正式宣誓シテ上五百ヨリ成ル前記本言語且充分理解セラト並ビニ本陳述私、知ル且信ノ限ニ鑑定ニシム在ト申述ス

西井進一署名

一九四八年四月四日 今、面前三者名宣誓セリ

英國海軍參謀部予備隊

海軍大臣 W. J. H. L.

P. 10